

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370300984	
法人名	社会福祉法人 生き生き館	
事業所名	グループホーム生き生き館津山	
所在地	岡山県津山市大谷611-2	
自己評価作成日	令和 3 年 9 月 22 日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.keigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_koshyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370300984-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 10 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

心の通う人づくりを理念に掲げ「食事、入浴、リハビリ」に力を入れ、また家庭的な雰囲気でもゆっくりと過ごして頂けます。介護方針として、気配り、目配り、手配り、孫の手介護で利用者様を第一に考えて支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員にも「健康を考えて生き生きと働いてもらいたい」という気持ちで、母体の関連会社が施設に豊富に自家商品を提供している。また、今までは、ワークエンジニアリング会議が時間的に難しいと言っていた事が「些細な点も解決したい。」という方向で参加が増した事も、職員の意識が自分欲でなく、忙しくても「家族に、特に孫の為に」という合言葉となり、その根源となっていた。利用者家族を巻き込む職員と協力してくれる母体、そして施設自体が、管理者二人の基、仲良く助け合う大きな我が家そのものとなっていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、社訓、介護方針は日々の生活の中で自分自身を振り返りながら唱和している。	理念を毎朝、職員と唱和して暗記し、週に一度、ミーティングで更に理解を深めている。また、職員は入居者とコミュニケーションを密に取り、信頼関係づくりに努め、「心の通う人づくり」の実践に繋げ、コロナ禍を充電期間に置き換え、職員から会議をして欲しいと要望が上がる様になった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防の為、地域の交流も少なくなっているが、お便り等で繋がりを保っている。	町内会に入っており、清掃除、ゴミ当番に参加して、交流や近所の保育園との行き来が続いており、近所の住人が散歩がてらに畑の作物を差し入れに来てくれる。正月の餅つきが事業所の恒例行事としていて、毎年、「一年の計は元旦にあり」なので町内の方へお年賀に伺っている。	せつかくの地域のご縁があるので、運営推進会議で書面を配っているのと同じように、地域や官公庁関係に書面を持って、関わりを深めては如何でしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議もコロナ禍の為、出来ない事が多くなりましたが、緩和したら、認知症に対する理解や支援を一緒に広めて行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定例に開催している、入居者の近況報告、行事報告等をすると共に防災、水害に関して町内役員、民生委員から災害予想、行政からは、感染症や防災について伝達を受けている。	書面でやり取りする会議としており、町内会長、民生委員、市役所職員、家族、利用者が参加しており、専門機関から情報提供を受けている。地域活動が出来ない中でも、いつ再開されても参加できる用意がある事や意思を表明している事で、参加メンバーの士気を維持させようとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点など市に相談し協力を得ながら取り組んでいる。	管理者が窓口となっており、役所や包括支援センターとは何でも話せる関係が出来ている。情報は主に、メールで受けて迅速な対応ができています。特に包括支援センターは、何かあれば直ぐに動いてくれ、信頼関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	週/1回のミーティングで気になる事を話し合いながら、身体拘束についての研修を定期的に行い取り組んでいる。	研修会では、何が拘束になるのか？と、職員から無記名による意見を持ち寄る事で、具体的な方向性を合わせようと工夫している。また、同じ様な言葉かけをするにしても、相手の気持ちを拘束させないような言葉かけとは何か？とその場の空気感を良くしようと理解を深め合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修参加で、内部研修やミーティングで勉強し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で勉強しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重度化した場合における対応に係る指針などを説明し、同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年もコロナ感染防止でお会いする事が出来てないが、月／一度の割合で電話、手紙等で連絡している。	家族から「事業所周辺の草取りをさせて欲しい。」と要望を受けて、利用者と職員と一緒に草むしりしながら、昔話に花をが咲かせている。また、家族から「利用者に役割提供をしてあげて欲しい」との要望に、洗濯物を畳むなどを提案する事で、利用者の楽しみの時間となった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回のミーティングで提案を聞く機会があり、日常的な関わりの中で気付いた点等話あっている。	職員のプライベートな相談等は、管理者も自分の事に喜び合えるので、ストレスフリーな職場となっていて、勤務繰りもスムーズに運んでいる。管理者と職員との関係は良好で、週1回のミーティングで取り上げられた提案は、管理者から代表に伝えられ迅速に検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通じて職員個々の状況等を代表者に報告し、評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の各事業所で研修委員を設け、年間計画を作成し研修を行っている、また外部評価にも出席している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	津山市介護保険事業所の会議や、研究会などには、参加しているが、他事業所との交流は出来ていない、状況を見ながら機会を見ながら、サービスの向上に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや不安を受け止め、安心してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安が解消できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に何が一番必要なのかを見極め、対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いの気持ちを大事にして、居心地の良い場所にできるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族への連絡を一ヶ月／1度、手紙、電話にて密にとり、関係が途切れないように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、窓越しで会ってもらったり、最近の写真を送ったりと、馴染みの関係が途切れないように支援している。	施設が広々している構造を活用して、隣の長屋に通うが如く、利用者は、ユニット間を行き来している。出入りされる大工や訪問理美容や住診医や看護師他、納品業者とは専ら馴染みで、来訪を皆で歓迎している。玄関の向かいが線路と通園路になっていて、手を振り合う事が日課となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を知り、トラブルが起きない関係作りを考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報提供を行い相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話等で以前の生活習慣に(職歴、趣味、性格等)近づけるように努める。	意向を伝えにくい方には、個々のアセスメントを活用して、昔話をきっかけに少しずつ意向を出して頂こうとしている。職員とは、「この事業所に居る時には、皆、優しい女優になろうね」と言葉を掛け合いながら、まず、利用者の要望は全て聞き取って、出来るだけ叶える様に努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活履歴を把握し、それを活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを把握し、心身の状態に合わせてケアが出来るように努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の担当者が定期的にモニタリングを行い、ご本人、ご家族の意見を反映しミーティングで状態を話し合い見直しをしている。	毎週ミーティングを行うので、6ヶ月に一度のモニタリングとしている。その間、利用者の状態に応じて個別にカンファレンスを行い、ケアプランは、主治医や看護師の意見も盛り込んで作成しているので、加齢や病状の変化に応じて柔軟にカンファレンスが開催できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の経過記録に記入し、職員が確認できるようにしている。また、これを基に介護計画の見直しに役立てる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で町内の行事に参加が難しいが、施設周りの散歩を通じて、リフレッシュしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師との連携を密に適切な医療が受けられ、また、定期的な往診もあり、安心して診察が受けられるように支援している。	かかりつけ医は選んで頂けるが、入居時には、皆、提携医に転医される。他科への受診は家族が受診を介助している。提携医とは、何でも気さくに話せる間柄となり、馴染みとなっていて診察よりおしゃべりで時間が足りないくらい隔週の往診は、皆の楽しみの時間となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常の早期発見に努め、変化があれば即相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、医療関係に情報提供を行い、定期的に面会へ行き状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所の対応を説明し同意を得ている。本人、家族の意向を相談しながら、主治医の指示のもとに、ご家族、主治医と連携とり終末期向け支援している。	看取りをしているが、けがや感染症等が起こった際は、地域の施設や医療機関を紹介できる旨を、重要事項として説明し納得して頂いた上で、受け入れをしている。提携医は、24時間、年中無休で往診に来てくれ、看取った後は、職員で、振り替える機会を必ず設けて次に生かそうとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は、内部で心肺蘇生など実践し、すべての職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年／2回消防署立ち合いのもと避難訓練、心肺蘇生等の実践を行っている、また月／1回は、小訓練を行い、意識を高めている。	年2回、昼夜想定火災訓練を、利用者を実施し、災害時の避難場所は同法人の二階を一時避難場所としている。避難訓練時、地域の自衛消防団の協力を得て、今年は、訓練の様子を写真に収め、情報交換をした。備蓄は、ごはんと汁物・水等を一週間分用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを尊重し、コミュニケーションを取りながら、個別レクリエーション等で、気持ちや思いを自己決定出来るように雰囲気作りをしている。	呼称は苗字に「さん」を付け、苗字が同じ方には姓名でお呼びする。利用者の反応の良い呼び方を使う前には、家族に必ず了解を得て呼ぶ事としている。申送りの際には、花の名前を付けている居室名で行い、ノックをして返答を聞いてから入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できにくい利用者様に対しては、表情を読み取ったり、決めやすいような声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その人らしい生活を送って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は、本人に確認しながら決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中で、好みの食べ物を調査している。	法人の栄養士が県下全域の関係事業所の献立を考え、近隣のグループ事業所のデイサービスから、手作りの物が配送される。栄養士は事業所にも来訪し、様子を見守っている。法人の自家製麺・自家製甘酒・自家製もろみ酢など、理事長が職員にも振る舞って、福利厚生以上に喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と1日の摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の口腔体操を行い、食事を美味しく食べて頂く様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェックし、トイレで排泄できるように支援している、また事業所特性のもろみずを飲んで頂き、排泄がスムーズにできるように支援している。	利用者毎に排泄パターンを把握し、法人で生成した「もろみ酢」を普段から飲んで頂く事で、極力薬に頼らず、スムーズに排泄出来ている。排泄用品も効果的且つ効率よく使って、家族の経済負担も考えていて、失敗時は、「部屋に帰りましょうか」とさりげなく横から言葉をかけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを記録し、毎日の体操で、便秘対策に取り組んでいる、また散布にも積極的に誘っている(施設内、屋外)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、事前に声かけを行い体調に考慮し入浴しています。	週3回入浴を提供している。法人で薬用の入浴剤を製造しており、入浴の際に選んで頂く。入浴を嫌がる方には、「明日、大きな行事があるからきれいにしておきましょう」と言葉をかけている。入浴へ誘う事がとても上手な職員に出番を用意して、周囲の人も楽しい雰囲気包んで誘導をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の流れの中で、必要な睡眠・休息がとれるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には本人に渡し、きちんと服用できているか確認している、薬の処方、効能など職員でわかるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味を活かし張りのある生活を送れるよう支援している。(畑の草取り、洋服のボタンつけ、縫物等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会が少なくなりましたが、外の風景、季節感を感じて頂けるよう支援している。	近所に無人の野菜販売所があり、それを目当てに行く散歩が頻繁に行われている。広い敷地に出向くだけで、十分な散歩となるので続いている。構内には、果実樹木がいろいろ植えられており、それを眺めにも行く。目の前の線路を歩き来する車を眺めながら頂くカフェタイムも日常ののどかな風景となっている。	コロナ終焉に向けて、外出機会を増やしてみたいか？

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は一切管理していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して生活できるように居心地の良い空間作りに努めている、また天井には天窓あり常に陽が差すように配慮している。	線路と山々の自然がハーモニーを運び、どの部屋からも四季の移ろいを感じ取れ、屋内はあえて、極力装飾をしないようにしている。利用者は、殆ど毎日、玄関ホールから電車が通る線路と園児がはしゃぐ通園路を眺める時間を楽しみにしていて、地域の人たちと挨拶ができる関係が続けられているせいか、どの利用者の表情も穏やかに感じた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに、独りになれたり、仲の良い者同士がくつろげる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れたものを持ち込まれ安心して生活が送れるように配慮している。	共有空間と同じように、周囲の風景を活かせる様に、装飾は控えめとなっていた。ベッドや家具に至るまで、本人の思い思いの物を持ち込み、心が落ち着く我が家となっている。必要に応じて、介護ベッドや車いすがレンタル出来て、安心して生活ができる様にもなっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様い合わせ、わからないことに対しての目印を使たれしている。		